

「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式

——情報提示の間接性に着目して——

渡 邊 ゆかり

要 旨

我々が聞き手に何らかの情報提供を行う手法の一つに「引用」という手法がある。本稿では、この引用表現のうち書き言葉の中で用いられる「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式について分析を行った。その結果、文末形式としては、必ずしも、引用情報の後に直接、句点の「。」が続く場合が主流であるとは言えないこと、どのような文末形式を選択するかは、「引用情報の事実性や引用元の見解に対する引用者の共感度、信頼度」や「引用者が引用情報を引用する目的」に左右されていることが明らかとなった。

1. は じ め に

我々が聞き手に何らかの情報提供を行う手法の一つに「引用」という手法がある。引用は、文中において聞き手に伝達する情報の情報源を明示することを前提とする。この引用は、論文やレポートを作成する際に、自者と他者の見解を区別する上で不可欠である。

そのため、論文、レポートの書き方について紹介しているワークブックにおいては、論文やレポートで使用する代表的な引用表現の文型が示されていることが多い。

これらのワークブックでは、この引用表現の文型として、「(引用元) 名詞-は」から始まるものと、「(引用元) 名詞-によると」から始まるものが挙げられており、前者については、文末形式として「と述べている」のような「と+動詞」の形を取ることが示されている。一方、「(引用元) 名詞-によると」から始まる引用表現については、引用情報の後に直接、句点の「。」が続く形で示されていることが多い。しかしながら、ワークブックの中には後者の引用表現の文末形式として「という」も記載しているものも存在する。

では、実際に、引用情報の後に直接、句点の「。」が続く場合とそうでない場合はどのように使い分けられているのだろうか。また、引用情報の後に続く形式として、「という」以外にどのようなものが存在するのだろうか。

ワークブックにおいては、これらの点に関する情報が極めて少なく、とりわけ、日本語学習者にとっては、「名詞-によると」から始まる引用表現を用いる場合、どのように文末を終結さ

せればよいのか悩ましいところである。

そこで、本稿では、書き言葉で用いられる「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式について、調査、分析を行った。

2. 先行研究

引用表現の構造に関する先行研究の代表的なものとしては、鎌田（2000）、藤田（2000）（2014）、加藤（2010）がある。しかし、いずれも、「名詞-によると」で始まる引用表現の終結の仕方については取り上げていない。1節で述べたように、論文、レポートの書き方について紹介しているワークブックでは、引用情報にそのまま句点の「。」が続く形を取りあげていることが多い。しかし、中には、引用情報に「という」などが続く形を挙げているものも存在する。

具体例を挙げると、二通・佐藤（2003, p. 33）は、「引用に使われる表現、文型」のうち「によれば」「によると」で始まる引用表現の結びとして「ということである」「という」を挙げており、引用表現に直接、句点「。」が続く形は挙げていない。また、アカデミック・ジャパニーズ研究会（2002, p. 95）は、「によれば」「によると」で始まる引用表現の結びとして、引用情報に直接、句点の「。」が続く形に加え、「という」が続く形も挙げ、「という」はやや口語的であるとしている。

このように、「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式の取り上げ方は、ワークブックにより部分的に異なっている。

論文、レポートの書き方について紹介しているワークブックでは、実態よりもむしろ規範性を重視しているため、著者の考える規範性が、必然的にこのような捉え方の差に影響する。

規範性に対する個人差を考慮しつつ、文章の目的、文脈に適した望ましい表現を選択していくためには、「名詞-によると」で始まる引用表現の使用実態についての把握も重要である。

そこで、本研究では、『日本語書き言葉均衡コーパス』（通称 BCCWJ）¹通常版から収集した引用表現を対象に、「によると」から始まる引用表現の文末形式について、調査、分析を行った。

3. 調査方法

本調査では、BCCWJ から中納言²を使用して収集した「名詞-によると」から始まる引用表現に対し分析を行った。用例の収集方法は、以下表1の通りである。

表1 BCCWJ からの用例の収集方法

用例検索日	2017年7月29日
対象レジスター	「出版・雑誌」のコア・非コア 「出版・書籍」のコア・非コア 「出版・新聞」のコア・非コア 「特定目的・白書」のコア・非コア
検索方法	文字列「によると」を用いた文字列検索
用例数の調整方法	段階1：検索結果2,737件の用例をエクセルデータに変換しダウンロードする。 段階2：収集した用例2,737件に対して、RAND 関数を使って乱数を付与する。 段階3：データを乱数に基づき昇順に並べ替える。 段階4：昇順に並んだデータを、引用表現に該当しない用例を除いた上で、昇順に500例収集する。

表1に挙げた対象レジスターは、コア・非コアのいずれにも存在するもののうち、話し言葉的要素の強い「特定目的・知恵袋」「特定目的・ブログ」を除いたものに相当する。また、用例数の調整の際、以下のような表現例は、本稿で分析対象とする引用表現に該当しないものとして除外した。なお、表現例の後には、BCCWJのサンプルIDを付した。また、表現例中の下線は稿者による（以下同様）。

「ことによると」という副詞的な慣用表現として使用

- (1) あるいはエレンに情事が発覚せずにすんでさえたなら、ことによると、日の目を見たかもしれない何通りものシナリオを空想してみたりもしたものだ。(PB19_00162)

「を用いると」という意味で使用

- (2) しかし、この処理方法によると、評価差額は為替相場の変動の影響を受けるから資本勘定が変動し、貸借対照表上、ヘッジ関係が適切に反映されない。(PB53_00387)

「に起因する」という意味の動詞として使用

- (3) 現在治療を必要とする病気やけがの原因が被爆によると認定されれば、月額約十三万九千六百円の医療特別手当が支給される。(PN2k_00010)

自らの推測の根拠として使用

- (4) 私の経験によると「倍洗い」でも親が洗う確率は四回に一回ぐらいだと思う。
(PB37_00158)

論理的帰結の根拠として使用

- (5) 『当代記』には、「此春比より、奥丹波え舟を可入とて、淀川を堀けるが」とあり、続いて八月二十七日の条に「此程成就して舟往来有ける」とあって、八月末には工事が完成したとしている。これによると、工事期間は六ヶ月前後ということになる。

(PB56_00084)

登場人物の会話文の中で使用

- (6) ハーツの随員によると、ロシア側の提案だということです」ダニーロフはかぶりを振った。(PB49_00320)

引用情報が文ではなく名詞句で示されている

- (7) 吉武らの発表によると、付き添っている母親の健康上の問題が指摘されている。(PB23_00385)

「S」を取り出すことができないもの

- (8) 通産省の調査「サービス利用者（個人）アンケート，千九百九十五年」によると，個人がよく利用するサービスとして，食事の出前や食材の配達，そして害虫駆除などが上位に挙げられている。(PB13_00111)

本調査では，表1に示した方法で絞り込んだ500例に対し，以下の4つの観点から分析を行った。

- A) 引用表現の文末形式の特徴
- B) 「レジスター」と引用表現の文末形式との関連性
- C) 「ジャンル」と引用表現の文末形式との関連性
- D) 「引用情報」と引用表現の文末形式との関連性

以下，本調査結果を見ていく。

4. 調 査 結 果

4.1 引用表現の文末形式の特徴

引用表現には，大きく(9)(10)のように引用情報の後に直接，句点の「。」が続くものと(11)(12)のように引用情報の後に引用情報であることを明示する表現が付加されているものが存在する。

- (9) 町によると，臨時議会に提案予定の十六議案のうち十一議案が，合併に向けた準備作業の専決処分で，議会に承認を求める。(PN5h_00002)
- (10) 米メディアによると，同機は離陸後，前輪が九十度真横に向いたまま機体に収納で

きない状態となった。(PN5c_00005)

- (11) 銘文によると千七百九十七（寛政九）年に湯上村（渋川市行幸田）の村中で、信州高遠の石工に刻ませた駒形神社とある。(PB32_00087)
- (12) 内務省によると首都で少なくとも二十七人が殺害されたという。(PM51_00003)

本稿では、引用情報そのものを「S」、引用情報であることを明示する表現形式を「 a 」で表示する。また、引用情報の後に直接、句点の「。」が続く引用表現を「Sのみ」、引用情報の後に引用情報であることを明示する表現が付加されている引用表現を「S+ a 」と記すこととする。なお、「S+ a 」には、次の(13)のように、文脈上、 a の前に位置するSの範囲が句点を超え、2文以上になっているものも存在した。本調査では、このようなものも「S+ a 」として扱うこととする。

- (13) 関係者によると、シンガポールの政府、開発銀行（DBS）、ケッペル・グループが、インド政府に不動産投資信託（REIT）市場の開設を打診するなど、インド進出の意向を表明している。それぞれに少なくとも十億ドルの投資を考えているという。(PM53_00040)

また、引用表現の文末が推測表現で終わるもののうち、次の(14)(15)のように引用元の判断モダリティが引用者の判断モダリティに同化されている引用表現は、(16)(17)のようにそのような同化の見られない引用表現と区別し、「Sのみ」とした。

- (14) 調べによると、七人は金券ショップやインターネットを通じて巨人戦の前売り入場券を転売しようと、今年五月から六月にかけ、一回三千円で雇った百人以上のホームレスを東京ドームの券売所に並ばせ、前売り券計九十五枚、総額約三十七万円を購入した疑い。(PN4i_00017)
- (15) 同通信によると、麻薬の「運び屋」は1回につき最高4万ドル（約四百三十六万円）程度を受け取っていたと見られる。(PN4a_00024)
- (16) 平成5年4月以降実施した中国残留邦人に対する帰国意向調査等によると、これら中国残留邦人のうち約千六百人が早期の永住帰国を望んでいると推定されている。(OW4X_00181)
- (17) 九州経済産業局が昨年まとめた「九州アジア国際化レポート二千二」によると、九州企業の海外進出先の七十五%がアジア。中国が最多の三十六%を占めた。人件費

が安い中国への進出は、製造業を中心に今後も加速するとみられている。(PN3 g_00003)

今回、調査対象とした500例のうち「Sのみ」は243 (48.6%)、「S+a」は257 (51.4%)であり、「Sのみ」と「S+a」の出現比率は、ほぼ同じであった。

また、「S+a」の下位類とそれらの頻度、出現率は表2の通りであった。

表2 「S+a」の下位類

分類番号	引用表現の文末形式	頻度	比率	順位
a.	SとV(「なる」以外)	144	56.0%	1
b.	S {と／に／Φ} なる	41	16.0%	2
c.	S {という／Φ} NがV	21	8.2%	3
d.	S そうだ	12	4.7%	4
e.	S らしい	10	3.9%	5
f.	S という N だ	9	3.5%	6
g.	その他	20	7.8%	
	合 計	257	100.0%	

以下、まず、表2に挙げた「引用表現の文末形式」について補足説明する。

表2に挙げた「引用表現の文末形式」は、テンス、アスペクトの要素を除去したものにあたる。モダリティ要素のうち、説明を表す「のだ」も除去している。この他、助動詞「だ」が省略されているものについては、「だ」を伴う形式の中を含めた。

文末形式における「N」は名詞を、「V」は動詞を、「Φ」は無標識であることを表している。表2中の「{と／に／Φ}」は、「と」「に」が任意に置き換え可能であること、加えてS末の品詞が名詞の時に無標識になることを表し、「{という／Φ}」は「という」の有無が任意であることを表している。

次に、表2に示された調査結果について補足説明する。

表2より、「S+a」の中では、「SとV(「なる」以外)」が56.0%と最もよく使用されていることがわかる。「SとV(「なる」以外)」におけるVで最もよく使用されていたのは、伝達行為を表す「いう(頻度99)」である。伝達行為を表す動詞には、この他「いわれる(頻度6)」「報告される(頻度3)」「述べる(頻度2)」などが用いられていた。また、認識行為を表す動詞(ex.「される(頻度14)」)、存在を表す動詞(ex.「とある(頻度5)」)、推測行為を表す動詞

(ex. 「推定される (頻度2)」)なども存在した。

4.2 レジスターと「Sのみ」「S + a」との関連性

ここでは、レジスターと「Sのみ」「S + a」との関連性について見ていく。

以下の表3は、BCCWJのレジスターごとに算出した「Sのみ」と「S + a」の出現頻度と比率を示している。

表3 レジスター別「Sのみ」「S + a」の頻度と比率

レジスター名	Sのみ	S + a	合計	残差分析
出版・雑誌	15 (46.9%)	17 (53.1%)	32 (100%)	n.s.
出版・書籍	106 (39.8%)	160 (60.2%)	266 (100%)	**
出版・新聞	80 (70.2%)	34 (29.8%)	114 (100%)	**
特定目的・白書	42 (47.7%)	46 (52.3%)	88 (100%)	n.s.

「**」は、0.01の有意水準で有意であることを示す。

χ^2 検定を行ったところ、 $p < 0.01$ で有意差が認められた。そこで、残差分析を行ったところ、「出版・書籍」「出版・新聞」の二つのレジスターにおいて、 $p < 0.01$ で有意差が認められた。したがって、「出版・書籍」では「S + a」の比率が他のレジスターに比べ高く、反対に、「出版・新聞」では「Sのみ」の比率が他のレジスターに比べ高いと見ることができる。

4.3 ジャンルと「Sのみ」「S + a」との関連性

ここでは、ジャンルと「Sのみ」「S + a」との関連性について見ていく。

まず、4.2で有意差が認められた「出版・書籍」の用例についてジャンルと「Sのみ」「S + a」との関連性を見ていく。次頁の表4は、「出版・書籍」の用例を対象とした、BCCWJのジャンル別「Sのみ」「S + a」の出現頻度と比率を示している。「総記」「産業」「芸術・美術」「分類なし」については、いずれも合計が10未満であったので、「その他」として一括した。

これらの値について、 χ^2 検定を行ったところ、 $p < 0.01$ で有意差が認められた。そこで、残差分析を行ったところ、「社会科学」において $p < 0.05$ で有意差が認められ、「文学」において $p < 0.01$ で有意差が認められた。したがって、「社会科学」では「Sのみ」の比率が他のジャンルに比べ高く、反対に、「文学」では「S + a」の比率が他のジャンルに比べ高いと見ることが

表4 「出版・書籍」を対象とした、ジャンル別「Sのみ」「S + a」の頻度と比率

ジャンル	Sのみ	S + a	合計	残差分析
哲学	7 (50.0%)	7 (50.0%)	14 (100%)	n.s.
歴史	21 (38.2%)	34 (61.8%)	55 (100%)	n.s.
社会科学	42 (50.6%)	41 (49.4%)	83 (100%)	*
自然科学	8 (27.6%)	21 (72.4%)	29 (100%)	n.s.
技術・工学	10 (38.5%)	16 (61.5%)	26 (100%)	n.s.
文学	3 (11.5%)	23 (88.5%)	26 (100%)	**
その他(総記, 産業, 芸術・ 美術, 言語, 分類なし)	15 (45.5%)	18 (54.5%)	33 (100%)	n.s.

「*」は0.05の有意水準で、「**」は0.01の有意水準で有意であることを示す。

できる。

次に、4.2で有意差が認められた「出版・新聞」の用例についてジャンルと「Sのみ」「S + a」との関連性を見ていく。以下の表5は、「出版・新聞」の用例を対象とした、BCCWJのジャンル別「Sのみ」「S + a」の出現頻度と比率を示している。

表5 「出版・新聞」を対象とした、ジャンル別「Sのみ」「S + a」の頻度と比率

ジャンル	Sのみ	S + a	合計	残差分析
ブロック紙	11 (68.8%)	5 (31.3%)	16 (100%)	n.s.
全国紙	33 (71.7%)	13 (28.3%)	46 (100%)	n.s.
地方紙	36 (69.2%)	16 (30.8%)	52 (100%)	n.s.

χ^2 検定を行ったところ、有意差は認められなかった。したがって、いずれのジャンルにおいても、ほぼ同程度に「Sのみ」が「S + a」よりよく用いられていると見ることができる。

4.4 引用情報と「Sのみ」「S + a」との関連性

4.4.1 分析対象

ここまでの分析を通し、以下のことが明らかとなった。

- 「出版・新聞」は、「Sのみ」の出現率が「S + a」より高く、加えて「Sのみ」の比率が他のレジスターに比べ高い。反対に、「出版・書籍」は、「S + a」の出現率が「Sのみ」より高く、加えて「S + a」の比率が他のレジスターに比べ高い。
- 「出版・書籍」の中では、「文学」は、「S + a」の出現率が「Sのみ」より高く、加えて「S + a」の比率が他のジャンルに比べ高い。また、「社会科学」は、「Sのみ」と「S + a」の出現率に大きな差がないものの、「Sのみ」の比率は、他のジャンルに比べ高い。

では、このような差は何に起因するのであろうか。ここでは、これまでの分析において、他のレジスターやジャンルとの比較において有意差が認められた「出版・新聞」「出版・書籍・社会科学」「出版・書籍・文学」を対象に、引用情報と「Sのみ」「S + a」との関連性について見ていく。

4.4.2 「出版・新聞」における引用情報と「Sのみ」「S + a」

ここでは、「出版・新聞」における引用情報と「Sのみ」「S + a」との関連性について見ていく。「出版・新聞」は、「Sのみ」の出現率が70.2%であることから、「名詞-によると」で始まる引用表現において「Sのみ」が基盤となっていると考えられる。「Sのみ」には、以下のようなものが存在した³。

S=既存の出来事

(18) 市消防局によると、清水町ビルには飲食店など約十五店と複数の住居があり、出火当時、住人の八十代の女性ら二人がいたが、避難して無事だった。(PN5k_00004)

(19) モスクワの日本大使館によると、観客の中に日本人がいたとの情報は無い。(PN2l_00011)

S=未来の出来事

(20) 防衛庁によると、チャーター機に乗るのは、スマトラ島北部のアチェ州で活動する陸上自衛隊の本隊。二十一日夜、札幌を出発しシンガポールへ向かい、その後、海自の輸送艦「くにさき」でアチェ州に移動する。(PN5h_00001)

S= 出来事に対する引用元の見解

- (21) 調べによると, ■■容疑者は二十五日午後十時三十五分ごろ, J R 山陽線の神戸—明石駅間を走行中の新快速電車内で巡査長の体を触った疑い。(PN3d_00019)
- (22) 原告側によると, 今後は全国のほかの訴訟でも, 東京地裁での和解と同様の条件で順次, 和解する見通し。(PN1d_00010)

S= 案件内容

- (23) 法案概要によると, 金融部門を安全民営化するため, 持ち株会社である日本郵政会社は, 二千十七年三月末までに郵便貯金銀行と郵便保険会社の全株式を処分する義務を負う。(PN5c_00022)

一方, 「S + a」には, 以下のようなものが存在した。

S= 既存の出来事

- (24) ロイター通信などによると, 野党支持者と大統領支持者との間で一時乱闘が起きたため警官隊が突入, 野党側の数人が拘束されたもようだ。(PN5f_00024)
- (25) 解放された人質によると, 覆面した犯人が舞台上で銃を上に向けて発射。劇場の廊下が血に染まっているとの情報もあるが, 犯人は観客の携帯電話を没収しており, 内部の詳しい状況は不明。(PN2l_00011)
- (26) レーガン元米大統領が死去した五日, カリフォルニア州ロサンゼルス西部にある元大統領の自宅は, 報道関係者が詰め掛けた以外, 弔問客の姿もほとんどなく, 静かな悲しみに沈んでいた。レーガン氏の事務所によると, 自宅ではナンシー夫人と息子ら家族数人が集まり, ベッドの脇でレーガン氏の最期をみとったという。(PN4j_00019)

S= 引用元の見解

- (27) 米メディアによると, 2懸案のうち, 年俸総額が九千八百万ドル (約百十七億六千万円) を超える球団に対し, 超えた額に一定の比率のぜいたく税 (課徴金) をかける課徴金制度の方が合意にはより大きな問題が多いとされる。(PN2o_00001)
- (28) 調査結果によると, 後円部では四段築成と考えられる, という。(PN5d_00027)

S= 規定内容

- (29) 経済産業省によると, 炭化水素 (石油成分) の含有量が五十%以上のものがガソリンとされるが, (PN1d_00025)

まず、「S = 既存の出来事」における「Sのみ」と「S + a」の相違を述べると、「Sのみ」では、引用者がSを確定情報として伝達しているのに対し、「S + a」では、引用者は、Sを確定情報としては伝達していない。(24)では、引用元が発する情報の事実性を推量した上で、事実性の高い情報として伝達しており、(25)(26)では、事実性の判断を保留し、引用元が発した一情報としてSを紹介している。

次に、「Sが引用元の見解」の「Sのみ」と「S + a」の相違を述べると、「Sのみ」では、引用元の見解が引用者の見解に同化されているのに対し、「S + a」では、このような同化が生じておらず、引用者が引用元と同一見解であるか否かについては保留されている。

このほか、「Sのみ」のSには、「S = 未来の出来事」「S = 案件内容」が存在した。いずれもSは、「S = 既存の出来事」と同様、引用者により確定情報として伝達されている。また、「S + a」のSには、「S = 規定内容」が存在した。この場合、引用者は、Sが引用元の立場からの規定であることを示すために、aにあたる「とされる」を付加し、事実性の保証を避けていると考えられる。すなわち、立場によってはガソリンの規定の仕方が異なる可能性があることをほのめかしているものと見られる。

4.4.3 「出版・書籍・社会科学」と「Sのみ」「S + a」

ここでは、「出版・書籍・社会科学」における引用情報と「Sのみ」「S + a」との関連性について見ていく。「出版・書籍・社会科学」における「Sのみ」の出現率は50.6%であった。したがって、「Sのみ」と「S + a」の出現率は、ほとんど差がない。しかしながら、「出版・書籍」の他のジャンルと比較すると、「Sのみ」の出現率が高かった。この「出版・書籍・社会科学」における「Sのみ」には、以下のようなものが存在した。

S = 既存の出来事

(30) 田近教授（一橋大学）によると、日本では戦後のシャープ税制で資産再評価を行い、償却不足を解消していたが、米国では実施されて行っていなかった。(PB33_00253)

(31) スミスとヴァン・デア・ボークトによると、ベルギーの立法者は同法によって、もっとも憎むべき犯罪とよりよく闘うべく法律を改正している諸国の先頭に自らを位置づけようとした。その結果、もっとも進歩的な立法の一つとなった。(PB23_00553)

S = 数量の多寡

(32) 最近のカンファレンス・ボードの調査によると、変化に対応できるリーダーシップが存在すると回答した企業はわずか五十四%にすぎず、さらに自社のリーダーシップが非常に優秀であると回答した経営幹部はたった八%しかいなかった。(PB33_00017)

- (33) これらの研究によると、ADHDのある子どもは他の子どもの約3～4倍、学習障害を示す可能性が高い。(PB53_00596)

S=引用元の見解

- (34) ここでは、まず行政指導が適法であることが前提とされており、最高裁によると、そのためには、行政指導を必要とする事情がある場合に、社会通念上相当と認められる方法によって行われ、「一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進する」という独禁法の究極目的に実質的に抵触しないことが必要である。(PB33_00197)
- (35) シャルチエによると、フランス革命の起源についての歴史研究の課題は、革命という事件の根源性を復元することであり、王政の長い歴史のなかで意識されなかった要因を再発見することなのである（同前書三百六十二頁、邦訳書収録、訳者「あとがき」）。(PB33_00805)

S=規定内容

- (36) 統合規程によると、報酬委員会の職務権限は、業務担当取締役の報酬の枠組みについて取締役会に勧告し、また取締役会に代わって業務担当取締役の報酬パッケージを決定することである（規程B・2.1）。(PB33_00086)
- (37) 辞書によると、異端者とは、「正当と認められない教義を信奉するキリスト教徒」をいう。(PB43_00631)

一方、「S + a」には、以下のようなものが存在した。

S=既存の出来事

- (38) 「なまはげ柴燈まつり」については、筆者が、男鹿市北浦真山在住の古老・太田忠助氏（明治三十二・5・二十八生）に聞いたところによると、いつの頃から定かでないがナマハゲ行事と柴燈護摩の行事を共通項として解釈した里の大屋や村の肝煎達が混同してしまったという。(PB53_00093)
- (39) 当日朝、さらに軍令部から最新情報が入っている。それによると、南京基地には中国軍戦闘機九、偵察機約三十機。南昌基地には戦闘機約四十、偵察機七、重爆撃機若干集結という報であった。(PB53_00614)
- (40) 複数の研究によると、貧困層のために使われたお金のうち、約三分の一しか彼ら自身の手には渡っていないことが確かめられています。(PB23_00742)
- (41) この対策班の調査によると、千九百三十八年、クジルオルダ州から三十三%の朝鮮

人が他地域に移住したことが明らかになった。(PB23_00242)

S=数量の多寡

(42) 他方、貸借対照表によると、この期間中に短期貸付金が三百三十四億円、関係会社短期貸付金が百九十八億円増えているが、長期貸付金が三百七十三億円、関係会社長期貸付金が五百十億円減少していて、貸付金全体としては三百五十一億円の減少となっている。(PB13_00568)

(43) 創造性の研究で世界で最も進んでいるアメリカのバーンズ博士の研究によると、一度だけより、改めて（少なくとも一日おいて）考えたときのほうが、良案が出る確率は九倍も高いということです。(PB33_00574)

S=引用元の見解

(44) また、F A S B の概念基準書の第6号によると、資産の特徴の一つとして、直接的又は間接的に将来のネット・キャッシュインフローに貢献することがあると述べている。(PB23_00368)

(45) ちなみにアーリーたちによると、仕事がむずかしくなるほど、抽象的な指示では生産性は落ちるという。(PB13_00641)

S=案件内容

(46) 三月一日、小泉内閣は、空前の国民負担増をもちこんだ医療制度の大改悪法案を国会に提出した（表3-5-5も参照）。これによると、第一は、〇三年四月から、1被用者保険の一部負担金の割合を三割（七割給付）に引き上げる計画である（本人と家族）、2七十歳未満の年金生活者（被用者保険の退職者）も一部負担を三割に引き上げる計画となっている。(PB23_00663)

まず、「S = 既存の出来事」における「Sのみ」と「S + a」の相違点を述べると、「Sのみ」では、引用者がSを確定情報として伝達しているのに対し、「S + a」では、引用者がSを確定情報としては伝達していないものと、Sを確定情報として伝達しているものとの二つが存在する。具体例で示すと、(38)(39)は、引用者は、Sの事実性の判断を保留し、引用元による一情報としてSを紹介している。これに対し、(40)(41)は、引用者は、Sを確定情報として扱い、その事実性が引用元により担保されていることを示している。

次に、「S=数量の多寡」における「Sのみ」と「S + a」の相違点を述べると、「Sのみ」では、引用者は、Sを確定情報として伝達している。一方、「S + a」では、引用者は、Sの事実性の判断を保留し、引用元による一情報としてSを紹介している。

続いて、「S=引用元の見解」における「Sのみ」と「S + a」の相違点を述べると、「Sのみ」

では、引用元の見解が引用者の見解に同化されているのに対し、「S + a」では、このような同化は生じておらず、引用者が引用元と同一見解であるか否かについては保留されている。

この他、「Sのみ」には、「S=規定内容」が存在した。

「出版・新聞」で挙げた(29)の「S=規定内容」は、「S + a」の形で示されていた。そして、その理由として、引用元以外の立場からの規定の可能性をほのめかすために、事実性の保証を避けていると述べた。しかし、ここで挙げた(36)(37)のSは、引用元以外の立場からの規定の存在は想定しにくい。すなわち、特に、引用元以外の立場からの規定の可能性をほのめかす必要性がないため、「Sのみ」で示されているものと考えられる。

また、この他、「S + a」には、「S=案件内容」が存在した。

「出版・新聞」で挙げた(23)の、「S=案件内容」は、「Sのみ」の形で示されていた。「Sのみ」型の(23)と「S + a」型の(46)を比較すると、(46)は、「大改悪法案」と称されていることから、引用者がこの法案の可決を望んでいないことがわかる。したがって、案件の内容についても、引用者がSを確定的な情報として伝達する際には、「Sのみ」が用いられるが、何らかの理由により、Sの確定性の判断を保留し、引用元による一つの案として紹介する場合には「S + a」が用いられるものと見ることができる。

4.4.4 「出版・書籍・文学」における引用情報と「Sのみ」「S + a」

ここでは、「出版・書籍・文学」における引用情報と「Sのみ」「S + a」との関連性について見ていく。「出版・書籍・文学」における「S + a」の出現率は88.5%であった。したがって、「名詞-によると」で始まる引用表現の文末形式としては「S + a」が基盤となっていると考えられる。

「出版・書籍・文学」に現れていた「Sのみ」は、以下の3例のみであった。

S=既存の出来事

- (47) 話によると中学生の頃から引き籠もり始めて既に二十年近く、彼は社会に出ること、家族と暮らすことを拒否していた。(PB49_00599)
- (48) 二十世紀著述家辞典増補版によると、イネスは千九百四十五年まで、アデレイド大学で教えたあと、千九百四十六年から四十八年まで、ベルファストのクイーンズ大学で講義し、千九百四十九年以後はオクスフォードに住んでいる。(PB59_00157)
- (49) 『新撰大人名辞典』によると、如電は弘化二年(千八百四十五)年生まれ。本名清修、通称修二。明治五年以来文部省の『新撰字書』の編集に従事していたが、同八年文彦に家督を譲って隠居し、爾後悠々自適の生活を送り、学問に親しみ、一生の碩学と

して重んじられたが、ことさら世に出て活躍するようなことはなかった。
(PB19_00290)

一方、「出版・書籍・文学」に現れていた「S + a」には、以下のようなものが存在した。

S=既存の出来事

- (50) 史書によると竹中半兵衛の人柄は一雷電左に落つるとも動ぜず、麋鹿右に起これども目瞬ず一とある。(PB29_00293)
- (51) 林若樹によると、長唄の師匠さんと結婚し、生涯喰わしてもらったということである。(PB19_00290)
- (52) 話によると、数分前に洗面所を出た美花は、学年主任と3組の担任が教室から穂を連れ出すのを見たらしい。(PB39_00593)
- (53) 彼の話によると、五年前に初めて別格に会ったという。(PB49_00370)
- (54) さらに○四年八月のNHKテレビ(○四年八月六日)によると、『蹴りたい背中』は百二十七万部、『蛇にピアス』は五十七万部になったとのことだ。(PB59_00557)

S=未来の出来事

- (55) 彼女は紙片をポケットから取り出した。それによると、六月七日、船田は、午前中に広告代理店H社を訪ね、午後は、写真家Nの写真展オープニングに出席、となつていて、H社と写真家Nの事務所の電話番号が記入してあった。(PB19_00353)
- (56) おじいさまの話によると、あと十日でいよいよ離別の日にくるという。(PB19_00048)

S=規定内容

- (57) その係員に訊いたところによると、トロント行きは十一時半に出ることになっているが、カウンターではすべて「スタンバイ」としてしか受け付けられないという。(PB39_00075)

S=引用元の見解

- (58) デイリーリッツによると、わたしは夢を見る必要があるという。(PB19_00218)
- (59) 父の話によると、矮鶏は小さいので床下でよく飼うから、そういう名が付き、それに尾鰭が付いたんじゃないかと言う。(PB19_00303)

まず、「S=既存の出来事」における「Sのみ」と「S + a」の相違点を述べると、「Sのみ」は、いずれも、物語の中で、語り手の役割を担う引用者がSを語りの世界における事実として伝達している。一方、「S + a」では、引用者は、Sを語りの世界の事実としては伝達していない。「S

+ a 」には、物語の文章中で用いられているものと作品解説の文章中で用いられているものがあったが、物語の文章中では、引用者にあたる特定の登場人物は、Sを事実としてではなく、単に自分が目にしたり耳にした、他者の記述や発言として伝達している。また、作品解説の文章中のSも、引用者にあたる解説者は、その事実性には関与せず、引用元から発せられた一情報として示している。

次に、「S=既存の出来事」以外のものについて見ると、「S + a 」には、「S=未来の出来事」「S=規定内容」「S=引用元の見解」が存在した。いずれも、物語の文章中に現れており、引用者にあたる特定の登場人物は、Sを事実としてではなく、単に自分が目にしたり耳にした、他者の記述や発言として伝達している。

5. 結 論

4節では、「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式について、BCCWJの「出版・雑誌」「出版・書籍」「出版・新聞」「特定目的・白書」の四つのレジスターから無作為抽出した500例を対象に、「引用表現の文末形式の特徴」「『レジスター』と引用表現の文末形式との関連性」「『ジャンル』と引用表現の文末形式との関連性」「『引用情報』と引用表現の文末形式との関連性」の四つの観点から分析を行った。

まず、一つ目の「引用表現の文末形式の特徴」については、「Sのみ」と「S + a 」とがほぼ同じ比率であることが明らかとなった。また、「S + a 」の形としては「SとV（「なる」以外）」の比率が高く、その中でも「Sという」が最もよく使用されていた。

次に、「『レジスター』と引用表現の文末形式との関連性」については、「出版・新聞」が他のレジスターに比べ「Sのみ」の比率が有意に高いこと、反対に「出版・書籍」は他のレジスターに比べ「S + a 」の比率が有意に高いことが明らかとなった。

続いて、「『ジャンル』と引用表現の文末形式との関連性」については、「出版・書籍」のうち、「社会科学」が他のジャンルに比べ「Sのみ」の比率が有意に高いこと、「文学」が他のジャンルに比べ「S + a 」の比率が有意に高いことが明らかとなった。

最後に、「『引用情報』と文末形式との関連性」については、以下の場合に、「Sのみ」が用いられることが明らかとなった。

- 引用者がSを確定情報として読者に伝達する時
- 引用者が引用元と同一見解にある時
- 引用者がSを語りの世界における事実として読者に伝達する時

また、以下の場合に「S + a」が用いられることが明らかとなった。

- 引用者が引用元とは独立した独自の視点から S の事実性を推量した上で、S を事実性の確率が高い情報として読者に伝達する時
- 引用者が S の事実性の判断を保留し、引用元が発した一情報として S を読者に伝達する時
- 引用者が S を確定情報として扱い、その事実性が引用元により担保されていることを明示する時
- 引用者が引用元と同一見解であるか否かについて立場を保留している時
- 引用者が S を事実としてではなく、単に自分が目にしたり耳にした、他者の記述や発言として伝達する時

これらの比較を通して言えることは、「S のみ」と「S + a」のいずれを用いるかは、「S の事実性や引用元の見解に対する引用者の共感度、信頼度」や「引用者が S を引用する目的は何か」に左右されるということである。

「S のみ」と「S + a」の比率が、レジスターやジャンルの影響を受けていることも、このことと無関係ではない。

その理由を述べると、「出版・新聞」において、「S のみ」の比率が「S + a」より高かったのは、新聞は、事実を読者に伝達することを主たる目的としているため、引用情報を伝達する際も、共感度、信頼度の高い情報を確定情報として伝達することが多いからだと考えられる。また、「出版・書籍・文学」において、「S + a」の比率が「S のみ」より高かったのは、文学は、物語を展開していくことを目的としており、特定の登場人物の視点と他の登場人物の視点を区別した形で物語が描かれることが多いことに起因すると考えられる。

6. お わ り に

本稿では、書き言葉の中で用いられる引用表現のうち、「名詞-によると」から始まる引用表現に着目し、その文末表現にどのようなものが存在するのか、それらの文末表現がどのように使い分けられているのかについて分析を行った。その結果、文末形式としては、必ずしも、引用情報の後に直接、句点の「。」が続く場合が主流であるとは言えないこと、どのような文末形式を選択するかは、「引用情報の事実性や引用元の見解に対する引用者の共感度、信頼度」や「引用者が引用情報を引用する目的」に左右されていることが明らかとなった。

このことは、研究論文やレポートにおける引用表現にも当てはまると考えられる。1節で述べたように、従来、「名詞-によると」で始まる引用表現の文末に関しては、テキストの著者の規範意識に影響されるところが多く、統一的な見解は示されていなかった。したがって、本研究の成果は、今後、論文やレポートの書き方の指導の中で、「名詞-によると」で始まる引用表現の文末形式を取り上げる際の一助となるであろう。

ただし、論文やレポートの場合、「そうだ」「らしい」のように、*a*として文体的観点から好ましくないものも存在する。すなわち、論文やレポートの場合は、文体的意味も*a*としての適切性に関与しているため、指導の際には、文体的観点からの説明も必要となる。さらに、「Sのみ」型の場合、引用情報の範囲が文を超えているのか否かが不明瞭になる場合もある。論文やレポートの書き方の指導の際は、この点についても留意が不可欠であろう。

注

- 1 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は、国立国語研究所が現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスである。
- 2 「中納言」は、国立国語研究所で開発されたコーパスを検索することができる Web アプリケーションである。
- 3 (21)(22)は、引用表現末の「疑い」「見通し」の後に、「がある」「を持っている」が省略されていると見ることができる。

参 考 文 献

- アカデミック・ジャパニーズ研究会 (2002) 『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク
 学習技術研究会 (2015) 『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ 第4版』くろしお出版
 加藤陽子 (2010) 『話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』くろしお出版
 鎌田 修 (2000) 『日本語の引用』ひつじ書房
 中澤 務・森 貴史・本村康哲・品川哲彦 (2007) 『知のナビゲーター—情報と知識の海—現代を航海するための—』くろしお出版
 二通信子・佐藤不二子 (2003) 『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 (1997) 『大学生・留学生のための論文ワークブック』くろしお出版
 藤田保幸 (2000) 『国語引用構文の研究』和泉書店
 藤田保幸 (2014) 『引用研究史論—文法論としての日本語引用表現研究の展開をめぐって—』和泉書店